

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677400139
法人名	社会福祉法人 恵誠会
事業所名	グループホーム花神荘
訪問調査日	平成21年11月18日
評価確定日	平成21年12月11日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4677400139
法人名	社会福祉法人 恵誠会
事業所名	グループホーム花神荘
所在地	肝属郡肝付町後田2542番地1 (電 話) 0994-65-7666
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年11月18日

【情報提供票より】(平成21年10月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年12月11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 人, 常勤換算 14人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

(4)利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	11 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.56 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	吉川医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

”花咲じいさん”に由来するホーム名には、心やすらぐ環境の中で、一人ひとりの自立支援を目指すというメッセージが込められている。建物は広々とした造りで、畳のコーナーやソファ、テラスや庭のベンチなど、利用者が思い思いの場所で過ごせるように配慮がなされている。地域の行事に招待されたり、ボランティアや学生の訪問もあるなど、地元の方々とのふれあいも盛んである。おいしい料理が並んだ食卓には、にぎやかな語らいと明るい笑顔があふれ、安心できる環境に包まれた穏やかな日々を感じさせる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はなし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が自己評価票に記入した上で管理者がまとめ上げ、更に話し合いを進めながら、項目の内容を理解し確認するように取り組んでいる。外部評価の結果についても、職員会議で報告し話し合いながら、改善に向けて積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、民生委員・行政・利用者ご家族・法人幹部が参加し、ホームの活動や行事計画を報告したり、出席者からの要望や意見を受けて積極的に取り組むなど、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	敬老会に合わせて家族会を開催し、ご家族から出された意見や要望について話し合っている。また、面会時に意向や要望の確認を行い、運営に反映するように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事である振興会花見や鬼火焚き、十五夜相撲大会などへの招待を受けて積極的に参加している。また、利用者と共にホーム周辺の清掃活動を行い、地域への貢献も行っている。ボランティアの方々により三味線や踊りをホームで披露してもらったり、学生の職場体験の受け入れなどを行いながら、地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初につくり上げた理念を基にして、職員全員で事業所の果たすべき役割を反映した理念にまとめ上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をダイニング・玄関・相談室に掲示し、理念に基づくケアのあり方について、日々業務や職員会議の中で具体的に話し合っている。また、年度ごとに、理念に基づく事業方針を掲げ、前年度の反省を踏まえながら理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事である振興会花見や鬼火焚き、十五夜相撲大会などへの招待を受けて積極的に参加している。また、利用者と共にホーム周辺の清掃活動を行い、地域への貢献も行っている。ボランティアの方々により三味線や踊りをホームで披露してもらったり、学生の職場体験の受け入れなどを行いながら、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が自己評価票に記入した上で管理者がまとめ上げ、更に話し合いを進めながら、項目の内容を理解し確認するように取り組んでいる。外部評価の結果についても、職員会議で報告し話し合いながら、改善に向けて積極的に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、民生委員・行政・利用者ご家族・法人幹部が参加し、ホームの活動や行事計画を報告したり、出席者からの要望や意見を受けて積極的に取り組むなど、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者にはこまめに相談・報告を行っており、緊密な関係を築いている。運営推進会議の前には、利用者の暮らしぶりを見てもらう機会も設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「花神荘便り」を発行しており、ホームの活動内容や計画、その月に誕生日を迎える利用者や新しい職員の紹介などを行っている。状態変化があった場合は、その都度、電話や面会時にご家族へ報告している。また、金銭管理については、三ヶ月に一回、預り金台帳のコピーを状況報告書と共に送付し、ご家族に確認していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老会に合わせて家族会を開催し、ご家族から出された意見や要望について話し合っている。また、面会時に意向や要望の確認を行い、運営に反映するように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員を利用者に紹介した上で、馴染みの職員が同行しながらケアの方法を指導している。特に声かけの仕方や言葉使いに注意を払い、利用者の反応を見ながら介入できるように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、内容に応じて職員が参加できるように配慮しており、受講後の報告会も行っている。毎月、担当者とテーマを決めて勉強会を行い、スキルアップの支援も行っている。		職員の経験や立場、習熟度等に応じて、段階的に育成するための計画を立て、さらなる資質の向上を目指していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加した際などに、同業者との意見交換や交流機会を持ち、サービスの質向上に活かしている。また、法人の研修や行事にも参加し、他部門の職員との交流機会もつくっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にホームを見学してもらい、他の利用者と一緒にお茶を飲む機会を設けている。体験利用も可能となっている。また、見学に来られない方については、職員が自宅や病院を訪問して、徐々に馴染めるように取り組んでいる。入居後も、ご家族の面会や自宅への外出支援を行うことで、安心して過ごせるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	おやつや漬物のつくり方、季節の具材を使った調理方法などを利用者聞きながら、力量に合わせて手伝ってもらっている。うたた寝している方に気づいた別の利用者が、掛け物を持って来てあげるなどの気遣いや、職員への励ましの言葉など、互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、独特な合図などから思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者に対しては、ご家族からの情報を得ながら相談し、本人本位に検討している。また、食事のメニューやレクレーション、ドライブなどについて、要望を聞いたり選択する機会を設けて、希望に添えるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意向や要望を聴取し、必要に応じてかかりつけ医や理学療法士の意見やアドバイスを取り入れながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一回モニタリングを行い、状態に合わせて関係者と話し合いながら介護計画の見直しを実施している。介護日誌の内容や職員から出されたサービス内容変更の提案から、本人やご家族の要望を聴取した上で、現状に即した計画の見直しがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人内の施設との連携が緊密に行われており、状態に応じて施設へつなげる支援も可能となっている。通院や外出時の送迎支援を積極的に行っており、行きつけの美容室なども要望に応じて利用できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望に添ったかかりつけ医となっており、受診の際はご家族や職員が同行している。受診時に医療機関へ情報提供しており、必要な場合はかかりつけ医に紹介状を書いてもらうなど、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、重度化や終末期に向けた事業所としての方針を説明している。状態変化の都度、ご家族やかかりつけ医と話し合いの上で方針を決め、関係者全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁時の声かけや、入浴時および排泄時の配慮について話し合いの機会を設けたり、日々のケアの中でも指導するなどして、プライバシー確保の徹底を図っている。また、記録物などの個人情報は、適切に取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就床、食事時間や寝る場所など、本人の希望や状態に応じて柔軟な対応がなされている。荷造りや探し物をされる利用者に対しても、行動を制止することなく、見守りながら希望に添った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを、職員と一緒にやっている。メニューの希望を聞いたり、食材や食事形態についても要望に応じることができるように努めている。また、天候によっては屋外で食事をする機会を設けたり、ホームの畑で採れた季節の食材を利用するなど、食事が楽しみなものになるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の一番の楽しみであり、毎日夕方からの実施としているが、希望や状態に応じて何時でも入れるようになっている。基本的に一人ずつの入浴となっており、入る順番は希望に添って柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	郵便ポストの確認や草取り、塵集めや調理など、利用者の生活歴や力量に合わせて力を発揮できる機会を設けている。また、買い物や散歩、屋外での食事など、楽しみごとの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事への参加や季節ごとのドライブ、日課としての散歩や買い物など、外出の機会をつくっている。また、ご家族と墓参りに出かけるなど、希望に添った外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることなく、自由に出入りできるようにしている。常に所在確認に心がけ、外出されそうな利用者に対しては、引き止めることなくそっと付き添い、見守りを行いながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回、消防署の協力を得ながら防災訓練を実施し、通報、避難誘導および消火訓練を行っている。また、夜間を想定した訓練も行っており、法人内での応援体制も整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に献立表をチェックしてもらい、専門的な観点から利用者の疾患や状態に合わせたアドバイスを受けている。食事や水分の摂取量を状態チェック一覧表に記載して管理しており、毎月体重測定も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームから見える畑には、旬の野菜や花が植えられており、季節を感じながら心地よく過ごすことができる。庭にはベンチが設置され、ホールの畳にはコタツが置かれるなど、思い思いの場所で過ごすことが出来るように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの箆笥や椅子、テレビや位牌、写真、装飾品などが持ち込まれ、居心地良く過ごせる配慮がなされている。居室内の物品や家具の配置などは、本人の意向に添って安心感が持てるように工夫されている。		